



2月の行事 針供養

交野おりひめ大学通信

一人じゃ出来ないことを、10人で、50人で、100人で！

令和8年2月号



2月の花 ツバキ



KATANO ORIHIME UNIVERSITY

交野おりひめ大学

- そは学科 ●おさけ学科 ●クラフトビール部
- 交野伝説学科 ●酒づくりの会 ●かたのキャンパス
- カフェ部 ●KATANOホイスコーレ準備室
- 目指せ！交野でテイラノサウルスレース学科

乾杯条例推進チーム、
新体制での活動を開始
地域の文化と地酒を
次世代へつなぐ一歩に

新しい年が始まり、寒さが本格的になってきた1月13日、山野酒造の酒造ホールにて、交野おりひめ大学のプロジェクトの一つである「乾杯条例推進チーム」が、新体制となって初めてのミーティングを行いました。

「乾杯」という習慣を、単なるマナーとしてではなく、地域の「コミュニケーション」を豊かにする「文化」として再定義し、どのように街に広めていくか。その具体的な歩みが、始まったのです。

多様な視点から語り合う、交野の「乾杯」。今回のミーティングには、山野酒造株式会社代表の山野社長、シビック・アンド・カンパニーの高橋社長に加え、今堀顧問と篠崎代表、さらに、交野の歴史や伝承を研究する「交野伝説学科」から小坂さん、谷さんといった、交野の街づくりや文化に携わる多様な交野おりひめ大学メンバーが、強い思いを持って参加してくれました。

酒造りの現場にいる方、まちのプロデュースを担う方、そして歴史を掘り下げる方。それぞれの専門領域から、「交野らしい乾杯」について意見を交わす時間は、非常に示唆に富むものとなりました。

乾杯という「共有」の時間
私たちは日頃、何気なく「乾杯」という言葉を使っています。ミーティングの中で改めて共有されたのは、その行為が持つ本来の意義でした。

乾杯は、お酒を飲む・飲まないという個人の選択を超えて、その場に集まった人々が「これから同じ時間を共に過す」という意思を確認し合う、大切な合図です。家族の団らん、地域の行事、あるいは人生の節目となるセレモニー。その始まりに乾杯があることで、場の空気が和らぎ、人々の心が一つにまとまります。

「乾杯条例推進チーム」が目指すのは、「こうした円滑なコミュニケーションのきっかけを、交野の街のあちこちで育んでいく」ことです。特に交野市には、七夕伝説をはじめとする数多くの物語が残っています。「こうした伝説をヒントに、「交野ならではの乾杯の発声」を考案できないか」という議論も行われました。誰もが自然に、そして少し誇らしい気持ちで声を合わせられるような、そんな言葉を探していきたいと想います。

大阪府下初の「乾杯条例」と、恵まれた環境

そもそも「乾杯条例」とは、交野で造られたお酒などを使って乾杯することを推奨し、市民や自治体、事業者が一体となって地元の特産品を盛り上げようとする取り組みです。

交野市は、大阪府下で初めてこの条例を制定した自治体です。古くからの街道が通り、良質な水に恵まれた「この地には、歴史ある二つの酒蔵が今も残り、近年ではクラフトビール醸造所も誕生しました。

二つの市の中に、日本酒とビールの両方の造り手が揃っているという環境は、全国的に見てもたいへん貴重なものです。「この恵まれた背景を活かし、地元の地酒やクラフトビー

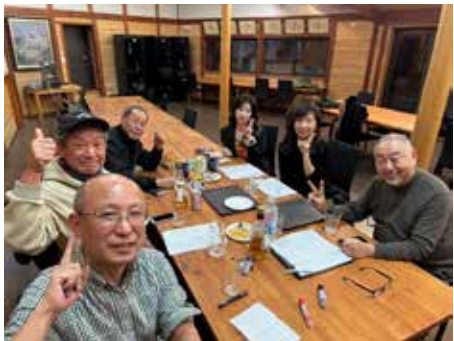
ルをより身近に感じてもらうこと、そして、それらを通じた乾杯文化が、街の活気へと繋がっていくことを期待しています。

今後の展望について

初回のミーティングを終え、チームとしての方向性が明確になってきました。今後は、まず乾杯条例の趣旨を改めて広く周知していくとともに、交野らしい魅力的な「カンパイ」のあり方を具体的に模索していきます。

「乾杯」という何気ない所作の中に、地域の歴史や人々の想いを重ねていく。そんな活動を通じて、交野の市民の皆さんはもちろん、この街を訪れる多くの方々にも、交野の魅力を再発見していただけるような発信を続けていきたいと思えます。

「これからのチームの活動、そして「交野流の乾杯」がどのように形作られていくのか、温かく見守っていただければ幸いです。



これからの発信が楽しみです！

★ ★
あなたの“やりたい”を交野おりひめ大学で始めてみませんか！
↓検索してみてください。
2026年度学科生募集中！
交野おりひめ大学